

美術研究科文化財保存学専攻（保存修復、保存科学、システム保存学）

養成人材およびカリキュラム編成の方針

文化財保存学専攻は、大学院に設置された専攻であり、文化財の保存と修復に関する専門家の養成と文化財を取り巻く環境や材料の研究を行っている。カリキュラムは領域毎に編成している。

【保存修復研究領域】日本画、油画、彫刻、工芸、建造物の5講座で、それぞれに応じた修復技術、材料、古典技法の調査と研究を行う。

【保存科学研究領域】文化財測定学と美術工芸材料学の2講座で、文化財および美術工芸品の材料学的知識の習得とそれらの性状・劣化現象の研究を行う。

【システム保存学研究領域】保存環境学講座と修復材料学講座の2講座で、東京文化財研究所との連携の下、文化財を取り巻く環境や材料の研究を行う。

求める入学者像

- ・文化財の保存に幅広く興味を持ち意欲的に研究に取り組むことができる者
- ・伝統技法や材料についての知識や技術の習得に関心をもつ者
- ・文化財の保存を通して社会に貢献したいと考えている者
- ・文化財の保存と修復を通じて伝統文化の継承を行いたい者
- ・国際的な視野で文化財の保存と修復に関わりたい者

卒業認定・学位授与の方針

最終年次の「修了制作または修了研究」を含めた所定の単位を修得した学生を修了と認め、修士の学位を授与する。

カリキュラム構成

【1年次】

「文化財保護概論」文化財保存に関する理念と基礎知識についての理解を深める。

「文化財保存学演習」各分野の専門基礎を学び、文化財の保存について広い視野を持つ。

【1、2年次共通】

「課題研究」各分野に応じた模写、模刻、模造、研究などを行い、専門的に必要な能力を養う。

その他、それぞれの分野に沿った専門科目や実技科目によって、修復技術の習得や、調書の作成、科学分析などの実践的な手法を学ぶ。

修士課程での研究の成果は、口頭発表ならびに展示発表し、プレゼンテーション能力を養うとともに、研究内容を公開する。

【次ページへ】

教育目標			
①文化財の保存について総合的な見識を養う ②文化財に用いられる材料や古典技法について理解を深める ③対象に応じた修復技術の習得や研究に取り組む ④文化財の保存のための実践的な研究手法の基礎を学ぶ ⑤多様な文化財に対して分野を超えた連携による保存を考究する			
年次	科目	教育目標	
1～2年次	必修科目	文化財保存学演習Ⅰ・Ⅱ	①②③⑤
		文化財保護概論	①③④
		課題研究	①②③④
	選択科目	保存環境計画論	①③④⑤
		文化財保護計画論	①④⑤
		古文化財研究	①②⑤
		文化財保存学Ⅰ・Ⅱ	①②⑤
		材料技術論	①②③④
		修復実習	①②③④
		伝統技法研究	①②③④
		埋蔵文化財保存学	②③④
		建築技術史特論	②③④
		都市再生特論	②③④
		建造物保存技術論	②③④
		都市遺産保存論	②③④
		建造物調査・修復演習	②③④
		保存科学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	②③④⑤
		文化財測定学	②③④⑤
		美術工芸材料学	①②③④
		材料学実験	②③④⑤
		機器分析法	②③④⑤
		機器分析実験	②③④⑤
		保存環境学特論	①③④⑤
修復計画論	①③④⑤		
修復材料学特論	②③④⑤		
西洋美術史特講	③④⑤		